



佐賀大学農学部同窓会報

創刊号（会報名称募集中）

●発行日 2007年12月1日

●発行 佐賀大学農学部同窓会

TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700

●編集 北川 行俊

住所 佐賀市本庄町1 佐賀大学内

E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

ホームページ <http://dousou.saga-u.ac.jp/>

特集 平成19年度佐賀大学農学部同窓会臨時總會開く



平成19年10月20日に佐賀大学農学部同窓会の臨時總會が農学部大講義室で開催され、5年ぶりの会則の変更等が原案通り承認されました。臨時總會終了後、野瀬学部長をはじめ先生方のご出席をいただき懇親会を盛大に開催しました。

農学部同窓会 会則の主な 変更点



- (1) 事業：「名簿の発行」「名簿の管理」（名簿は発行しないが、事務局への申し出により名簿の閲覧が可能）に変更
「会報の発行」 会報は8ページ程度のものを年2回発行の予定
「支部組織の活動支援と会員に対する各種支援」を追加
- (2) 總會：「隔年開催」「毎年開催」に変更
- (3) 終身会員（一括して3万円以上納入者）：〔55才以上〕 「卒業年次にかかわらず」に変更
- (4) 支部活動助成金：「助成金額や算定方法等は会長が役員会に諮り別に定める」ことを追加
- (5) 会計年度：「2年間で、7月1日～6月30日」「4月1日～翌年3月31日まで」に変更

特集

平成18年度分事業報告と収支決算

事業報告

平成18年7月以降、役員会を8回開催し、次の事業を執行すると共に、会員に対する事業の見直しや同窓会組織のあり方などを検討しました。

- (1) 同窓会誌第20号の発行・配布(2,700部)
- (2) 会員名簿の管理
- (3) 農学部同窓会長賞の新設と表彰者(1名)への授与
- (4) 在学生に対するキャリアデザイン講座等への会員派遣
- (5) 農学部及び全学同窓会支部への支援活動



収支決算

- (1) 一般会計(H18.7.1 ~ H19.6.30)

[収入の部]

項目	金額	摘要
1. 会費	3,746,000円	・ 新入生10年会費及び入会金 (H19年入学他; 157名) × 22千円 = 3,454千円 ・ 一般会費 延146名・年 × 2千円 = 292千円
2. 記念誌販売	145,600円	農学部創立50周年記念誌 800円 × 182部
3. 雑収入	682円	預金利息
4. 繰越金	2,141,340円	
計	6,033,622円	

【差引残】

収入 6,033,622 - 支出 5,443,600円 =
590,022円 (H19年度へ繰越し)

- (2) 特別会計(H18.7.1 ~ H19.6.30)

項目	金額	摘要
(収入の部)		
繰越金	8,059,813円	
入会金	78,500円	新入生入会金 157名 × 500円
雑収入	775,372円	定期預金10年分利息
計	8,913,685円	

支出は無く、全額次年度へ繰越し。

会計監査報告

平成18年度分の会計監査を実施したところ、会計諸帳簿及び証拠書類、預金通帳等いずれも適切に処理されていたことを認めます。

平成19年10月20日

監事 澤野 兵五 (印)

監事 石川富美夫 (印)

[支出の部]

項目	金額	摘要(主なもの)
1. 事務費	889,450円	総会・役員会案内等送料、事務局職員賃金、支部総会出席旅費
2. 会議費	220,129円	
① 総会費	106,895円	総会費、資料代
② 役員会費	113,234円	会場使用料、茶菓子代
3. 事業費	1,670,345円	会誌第20号発行、会費徴集用紙・封筒印刷、名簿情報管理八ガキ送料、同窓会長賞表彰費
4. 組織強化費	40,000円	支部総会時の御祝
5. 全学同窓会負担金	2,072,400円	新入生10年会費の60%
6. 特別会計へ繰出	78,500円	新入生入会金 157名 × 500円
7. 繰出金	400,000円	農学部創立50周年記念誌の配布分担 800円 × 500部
8. 予備費	72,776円	慶弔費、就職ガイダンス講師旅費・謝金
計	5,443,600円	



特集

平成19年度事業計画と収支予算

事業計画

会員が同窓会をより身近なものとするために、支部体制の充実や会費未納者を含めた全会員への会報の配布などのほか、準会員である学生に対する支援を継続して実施します。

- (1) 同窓会会報（8ページ程度）の発行・配布（6月と12月、5千部）
- (2) 会員名簿情報の管理
- (3) 支部の組織化推進
- (4) 農学部同窓会旗の作成と5支部への配布
- (5) 農学部同窓会長賞の授与
- (6) キャリアデザイン講座等への会員派遣



収支予算

- (1) 一般会計（H19.7.1～H20.3.31）

〔収入の部〕

項目	金額	摘要
1. 会費	2,510,000円	新入生10年会費 (H19年入学; 5名) × 22千円 = 110千円 一般会費 延900名・年 × 2千円 = 1,800千円 終身会費 20名 × 3万円 = 600千円
2. 記念誌販売	254,400円	農学部創立50周年記念誌 800円 × 318部
3. 雑収入	578円	預金利息
4. 繰越金	590,022円	
計	3,355,000円	

(注) 平成20年4月入学の新入生10年会費は、20年度予算で計上。

- (2) 特別会計（H19.7.1～H20.3.31）

項目	金額	摘要
〔収入の部〕		
繰越金	8,913,685円	
入会金	2,500円	新入生入会金 5名 × 500円
雑収入	1,815円	預金利息
計	8,918,000円	

支出は無く、全額次年度へ繰り越し。

〔支出の部〕

項目	金額	摘要(主なもの)
1. 事務費	530,000円	総会・役員会案内等送料、事務局職員賃金、支部総会出席旅費、慶弔費
2. 会議費	250,000円	
①総会費	150,000円	臨時総会費、資料代
②役員会費	100,000円	会場使用料、茶菓子代
3. 事業費	1,090,000円	会誌2回分、名簿情報管理八ガキ送料、同窓会長賞表彰費、同窓会旗作成
4. 組織強化費	70,000円	全学・農学部支部総会時の御祝、支部設立支援費
5. 全学同窓会負担金	66,000円	新入生10年会費の60%
6. 特別会計へ繰出	2,500円	新入生入会金 5名 × 500円
7. 予備費	1,346,500円	
計	3,355,000円	

会費納入の
お願い

今回の臨時総会により、終身会員はこれまでの「55歳以上」から「卒業年次にかかわらず」に変更になったこと。又振込手数料は同窓会負担とし、さらに振込みがこれまでの郵便局の他、コンビニ、パソコン、携帯電話からの支払も可能になりました。

会費未納の方は年会費2,000円、又は終身会員になるためには一括して3万円を同封の振込用紙にて納入ください。

農学部の動き



佐賀大学公開シンポジウム

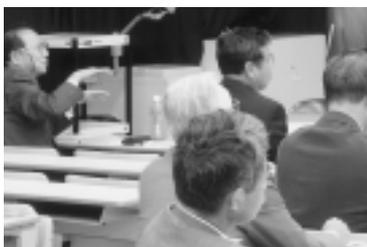
循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発

農学部主催の公開シンポジウム「循環型社会へ向けた食料生産・加工・消費システムの研究・開発」が10月20日(土)に、佐賀大学農学部大講義室で開催されました。

農学部では、学長経費（中期計画実行経費）事業として、上記テーマに関する総合的な研究・開発が平成16年度から5ヵ年計画で行われています。農学部教員全員が資源循環を前提とした「食料生産システムの研究・開発」、「食料の保蔵・加工・利用シス

テムの研究・開発」および「食料消費システムの研究・開発」の三つのサブプロジェクトチームを形成して研究を進めており、今回のシンポジウムは平成18年度の研究成果を一般市民に分かりやすく紹介することを目的として行われました。当日は、西河副学長、野瀬農学部長の挨拶の後、5名の先生方が研究成果を紹介され、いずれも興味深い発表で活発な質疑応答がなされました。

演題と講演者（敬称略）は次の通りです。



- | | |
|---|-------|
| 1. 野生種を利用したナスの細胞質雄性不稔系統の育成 | 一色 司郎 |
| 2. 有用線虫を用いた病害虫防除 | 吉賀 豊司 |
| 3. 粘土地盤の堆積環境と工学的性質について | 近藤 文義 |
| 4. 低温適応酵素のやわらかい構造と機能
——食品加工への利用の可能性—— | 渡邊 啓一 |
| 5. ノリ養殖漁家に見られる生業構造の変遷と特性
——有明海周辺地域の協業化と協業体を事例に—— | 武田 淳 |

循環型社会における食料の研究は農学部の責務であります。今後、農学部では、過去3年間の研究開発で得られた研究シーズをもとに課題を新たに設け、これらについて提案公募型研究を進めることにより、研究 COE の核形成を目指します。

来年度の公開シンポジウムは同窓会総会との同時開催が予定されています。是非、多くの同窓会会員の皆様に、本シンポジウムに参加いただき、現在の農学部で行われている研究について知っていただくとともに、プロジェクト研究に対する忌憚のないご意見、ご批判をお願いいたします。

光富 勝（S51年卒・食品製造学）



研究成果から具体的な事業化 佐大と企業が新組織

「佐賀大ビジネスコミュニティネットワーク (SBC)」が発足

10月16日、佐賀大学産学官連携推進機構は、佐賀大学の研究成果を県内企業に紹介し、共同研究や技術移転を行い、具体的に事業化するため、「佐賀大ビジネスコミュニティネットワーク (SBC)」を設立しました。

SBCは、大学の研究者、企業経営者、行政など組



織し、大学の新技術と企業の要請をマッチングさせ、新たな製品づくりにつながるよう、その役割を果たそうとするものです。



SBCでは2か月に1回、開催する計画で、大学の研究成果が地域経済の活性化に貢献できるよう意気込んでいます。

第1回研究会では、大学から出た芽を育ててみませんか？ 大学の発想・頭脳活用法 と銘打ち、農学部の教授陣が「機能性食品とは？」、「メタボリックシンドロームを予防する食品成分の発見」、「佐賀県産植物系バイオマスの活用法」、「佐賀大学ブランド清酒「悠々知酔」 産学連携の新しい試み 」について講演を行い、講演終了後には名刺交換会やアドバイザーボードがありました。

新時代の企業経営を学ぼう 農家対象に大学院で講座開設

「MOT 農業版」短期集中講座を開催

佐賀大学産学官連携推進機構は、平成19年11月13日～12月4日まで7回シリーズで、MOT (技術経営) 教育の農業分野への応用を目指し、短期集中講座が開催されました。

生産者の組織が多様化する中で、国の政策は農家保護から経営者の育成に転換し、自立しようとする農業者をいかに育成するかに移行しつつあります。

そこで、本講座は、このような変革の時代に広い見識を備え、農業を経済的論理で捉える視点を持ち、市場経済の厳しい競争に立ち向かう人材の育成を目的として、来年度以降早期の開講を目指す大学院の講座に先立ち、社会の要請を確認するための高度技術研修を行うものです。

集中講座では、マーケティング重視を共通項にし、農業経営のノウハウを先進農家の代表によるケーススタディーの手法に準じた講座とディスカッションで学習します。また、注目される技術動向として、農産物の生産・流通・販売のトレーサビリティの課

題や機能性食品のフロンティアについて農学部の担当教授が講座を開きました。

更に、外部講師を招き、関心の高い食品の安全性の問題と企業の農業参入の意義も取り上げました。

林 暉宏 (S45年卒・園芸学)
佐賀県農業信用基金協会



会員の広場

快適な山村生活

山梨県 北杜市 **成富 正温**
(S37年卒・農芸化学)



昭和37年3月9日卒業式に出ないまま就職先の東京へ。以来45年、リタイア後はここ山梨の山の中に居を構えている。当時は東京で就職する方は少なかったように思う。それほど遠い世界だった。昭和39年の東京オリンピックを控えていて高度経済成長の前夜の様相を呈していた。右も左も分からないままからスタートして大正製薬の研究開発部門での40年間であった。その間に大学の後輩も入社し、現在も活躍して頂いている。

リタイア後はひょんなことからここ山梨の山の中に居を構えることになった。居を構える1年ほど前友人に誘われて南アルプスの「甲斐駒ヶ岳(2967m)」に登山した。大変な思いをして登ってみると素晴らしい景観。忘れていた自然の雄大さと美しさを思い出した。学生時代に登った九州の山々が懐かしく思い出された。余生は雄大な山の見える所に住もうと決めた。ここ北杜市は2年前の市町村合併で山梨県の約20%という広大な面積を有し、標高も600~3000mの高地である。我が家は八ヶ岳南麓の標高1000mの山荘である。ここからは日本百名山が7つも見え、春夏秋冬夫々に雄大な景観が楽しめる。当地に住まいしてこの名山を踏破しようと決め、今年までに「富士山、南アルプスの北岳、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳の最高峰赤岳」に登った。地の利を生かして北アルプスへも挑戦中である。標高1000mは農産物栽培の限界ぎりぎりの場所である。近くの農家から農地を借りて季節の野菜を育てている。在学中に作物学や土壌学を教わったがすっかり忘れて、近所の人に教わ



冬の南アルプス(甲斐駒ヶ岳)

りながらやっている。

近くの山荘に美大出身の水彩画家がいて小学校以来という図画を習い始めた。



我が家の畑にて

周囲の雄大な景色に恵まれているので画題には事欠かないが、始めてみるとその幼稚さに驚いている。しかし、登山時の感動を描きたいとの一念でめげずに修行中である。お蔭様でサラリーマン時代のメタボリック症候群がすっかり姿を消し、すこぶる元気になった。

ここ北杜市は今年NHK大河ドラマで有名になった「風林火山」の撮影地でもある。武田信玄の時代当地には広大な牧場があり、その先には軍用道路(棒道)があり信州へ出陣する際の陣立ての地でもあった。歴史の好きな人には興味の尽きない所である。

宇宙航空研究開発機構へ是非

茨城県 つくば市 **永松 愛子(新姓・伊藤)**
(H9年卒・遺伝子工学)
宇宙航空研究開発機構

いつも楽しみに同窓会誌、大学の広報誌を読ませていただいております。私は1997年3月に農学部応用生物科学科 遺伝子工学(谷本研)を卒業した永松(業務上、旧姓を使っています)と申します。



私は現在、宇宙航空研究開発機構のエンジニアとして、国際宇宙ステーションやスペースシャトルに搭乗する日本人宇宙飛行士や生物試料の、フライト期間中の宇宙放射線被ばく線量を計測する研究開発を担当しています。国際宇宙ステーション建設に参加するNASA・ESA(欧州宇宙研究機構)・ロシアをはじめとするパートナー国や宇宙機関と協力を図

投稿を
お待ちしております

会員の皆様から、学生時代の思い出、大学や同窓会などに望むこと、近況報告、私の趣味、健康法など何でも結構です。1,000字以内で写真を2~3枚添付して事務局まで送ってください。お待ちしております。採用分には、佐賀大学ブランド清酒「悠々知酔」、または、佐賀県産農産物を謝礼としてお送りします。次号の会報発行は来年6月を予定していますので、原稿〆切りは20年3月末とします。

りながら、搭載機器検証のためのフライト実験、精度検討のための地上加速器照射実験を順調に進めています。来年には、国際宇宙ステーションの日本の実験モジュール「きぼう」の打ち上げ、3人の日本人宇宙飛行士の搭乗予定が決まっており、活気のある職場です。パラボリック航空機を使った微小重力環境での検証実験など、宇宙開発ならではの業務も数多く担当しています。プライベートでは、高エネルギー加速器研究機構の大学院にて、社会人をしな

がら「宇宙放射線物理」の博士課程にも在学中です。それから、2歳と1歳の男の子のママでもあります。

佐賀大学からの当機構へ就職したものが私のみとのこと。ぜひ佐賀大学から、宇宙開発や航空技術へ興味を持ち、宇宙航空研究開発機構へ就職される方がいらっしやらないかと思っております。就職活動に必要なOB訪問等も佐賀大学の方を優先に、私のほうで対応させていただきたいと思っておりますので、希望される学生の方へご紹介いただければ幸いです。

会員の情報

会員の中で、これまで博士号を取得された方を紹介します。



西村 賢了さん

(S46年卒・土壌肥科学)

「米焼酎の新規製造プロセスの開発に関する研究」

博士(工学)

熊本大学

焼酎製造においてプロセスが単純で省エネルギー的な製造法を行うため、麹を使う従来法に代わり、酵素剤による無蒸煮発酵法を提案し、ラボスケールから中間プラントでの実証試験・ケーススタディを実施し、顕著な省力化と省エネルギー効果が達成できることを認めた。

熊本県産業技術センター

(農学部同窓会熊本県支部長)



田中 政信さん

(S46年卒・園芸学)

「サトイモ葉柄用品種育成に関する基礎的研究」

博士(農学)

鹿児島大学大学院連合農学研究科

主にサトイモ葉柄中に含まれる“えぐ味”の原因成分・物質を分析学及び解剖学的に解明したものである。この研究成果は新たな地域特産作物としてのサトイモ葉柄用品種の育種及び栽培に大きく貢献できると考える。

佐賀県杵島農業改良普及センター

学位論文名	取得学位
学位授与と大学名	学位論文の概要
現勤務先	



田代 暢哉さん

(S54年卒・植物病理学)

「ジャガイモそうか病に關与する *Streptomyces* 属菌の類別と生態並びに制御技術の開発に関する研究」

博士(農学)

九州大学

佐賀県上場地方の主要作物であるジャガイモに発生して甚大な被害を及ぼしているそうか病について基礎的及び応用的研究を行い、本病を引き起こす病原菌を遺伝子レベルで類別して明らかにするとともに、その生態を解明し、それら知見に基づいてこれまで防除が困難であった本病の耕種的・科学的防除技術を開発した。

佐賀県上場営農センター

学位取得

された方へ

本稿の3名以外にも多数取得されていると思いますので、該当の方(又はご存知の方)は、氏名、現職名、論文名、学位名、学位取得大学名、論文要旨(50字以内)、写真などを事務局までお送りくださるようお願いいたします。

支部 だより

佐賀県庁支部の総会開催

佐賀県庁支部では、9月5日、若楠会館において会員約40人が参加し、平成19年度の総会を開きました。平成18年度の事業実績や平成19年度の事業計画などを協議し、また、4月の定期異動に伴う新役員の選任を行いました。

また、農学部同窓会の北川会長に、ご出席をいただき、農学部同窓会の最近の動きを中心に話題提供をしていただきました。

農学部同窓会の活動を活性化するために、様々な取組がはじまっており、支部活動を盛り上げるための支援のあり方や、OBによる支援組織の結成、また、会報の作成、さらに平成18年度に新設した農学部同窓会長賞の紹介など、大学や同窓会での新しい取組を紹介していただきました。今後、会員の積極的な参画を働きかけながら支部活動を、より充実している必要があると再認識しました。

懇親会では、徐々に顔を会わせる会員も多く、盃を交わしながら仕事や趣味、遊びの話など会話も弾み、楽しい時間を過ごしました。

内海 修一（S47年卒・農業経営経済学）



佐賀県支部（仮称）設立へ

佐賀県内には、県庁、教職員、JA 連合会、農業自営者の4支部がありますが、それぞれの職場を退職した方は支部活動をする場がありませんでした。そこで佐賀県内に在住している方で、かつ農学部同窓会の支部のいずれにも所属しない方等を対象に、会員相互の親睦・交流を深めると共に、母校が実施するシンポジウムやセミナー等への参加を促進するなど農学部を支援する事業を行う佐賀県支部（仮称）を設立する準備を進めております。

これまで、10月1日に設立発起人（同窓会長を歴任された方々を中心に構成）による打合せ会を行い、今後は11月初めに設立への賛同を約200名の対象者に呼びかけ、来年1月中・下旬に設立総会を開催する計画です。

北川 行俊（S37年卒・園芸学）

事務局から

「会報」の名称募集

大学の広報誌には、佐賀大学は「かちがらす」、佐賀大学同窓会は「楠の葉」、佐賀大学楠葉同窓会は「なんよう」と愛称が付けられています。

農学部同窓会の「会報」にも農学部らしい親しみのある名称を付けてください。来年1月末までに候補名を事務局までがきにてお願いします。採用の方には、佐賀大学ブランド清酒「悠々知酔」、佐賀県産農産物などを謝礼としてお送りします。

「同窓会誌第20号」の一部訂正のお願い

訂正箇所	誤	正
32ページ左 下から17行目	深山良輔教授	三山良輔教授
〃 左 下から5行目	富安行雄先生	富安行雄先生
〃 左 下から2行目	富安行雄教授	富安行雄教授
〃 右 上から6行目	富安行雄先生	富安行雄先生
〃 左 下から2行目	農芸生産科学講座	農芸生産化学講座
〃 右 上から1行目	農芸化学科が核に	農芸化学講座が核に
〃 右 上から20行目	ご指導いただいた機関	ご指導いただいた期間
33ページ左 上から5行目	JR 町田駅	JR 田町駅

編集後記

このたび、農学部同窓会「会報」を創刊することになりました。そのねらいは、会員の皆様の同窓会に対する関心が年々薄れているように見受けられることから、大学、同窓会、支部、そして卒業生（会員）のネットワークを強化し、夫々の緊密な連携のもとに同窓会の活性化を図ろうとするものです。

これから、年2回発行の「会報」をより充実させるために皆様の率直なご意見をお聞かせいただくと共に、「会員の広場」への投稿などにもご協力をよろしく申し上げます。（K）